PICK UP！在宅医療機関　006

りおん薬局

平井文朗

代表

04-7197-3364

lionpharmacy-fine.com

千葉県柏市大島田1-6-1
セブンパークアリオ柏2F

ビジョン

訪問薬剤師として、多くの患者さんの人生から薬剤師としての「在り方」を学ばせてもらっています。処方せん受付、訪問、講演講義などを通じて、お薬を渡すだけではない薬剤師を知ってもらう活動を続けていきます。

注目の在宅医療機関へのインタビュー取材「PICK UP！在宅医療機関」の第6回目は千葉県柏市、埼玉県新座市にて「りおん薬局」を運営されている薬剤師平井文朗代表です。これまでの歩み、りおん薬局やこれからの薬剤師像に向ける思いを熱く語っていただきました。（2024年12月取材）

挫折から学ぶ

薬学を志すきっかけを教えてください。

大阪生まれの私は、高校時代まで競技スキーに打ち込む日々を送っていました。しかし、怪我によりスキーを断念。薬の力で痛みから解放された経験が、私を薬学の道へと導きました。
大学2回生の頃には、とある外資系の製薬会社（以下、A社）に入りたいという目標を明確に持っていました。それ以外の会社には行かない、と心に決めるほどでした。私は就職活動前から製薬企業を徹底的に調べ上げ、数十社にわたる情報を集めました。その結果、やはりA社以外に行きたい会社はないと確信しました。そして、A社への就職を叶えました。
就職後、第１志望の抗がん剤領域で働きたいと願い、研修に全力で取り組みました。しかし、実際に配属されたのはプライマリー領域の呼吸器麻酔分野でした。自分の思いを実現できず、正直悔しい思いがありました。
希望していた配属を得られなかった悔しさをバネに、誰よりも勉強しました。通常であれば一度で合格する薬剤師国家試験も、私は２度目の挑戦で合格するという状況でした。しかし、この働きながら勉強を続けるスタイルが、いつしか私にとって当たり前のものとなっていました。そして、この努力を積み重ねる習慣は、今も変わることなく続いています。

不屈の社会人生活

MRをされていた頃のエピソードを教えてください。

A社での広島時代の３年間は、単に麻酔薬を売るだけではなく、麻酔科や呼吸器科の先生方と深く関わりながら、多くのことを学ばせていただきました。先生方と密に連携しながら働いた日々は、自分の成長にとって大きな財産となりました。
２年目の夏頃に異動となり、そこで出会ったB先生が「これからは在宅医療が注目される時代だ」と話してくださり、初めてその重要性に気づかされました。当時は在宅医療についてほとんど知りませんでしたが、その先生の活動に触れ、訪問診療や往診の現場について多くのことを教えていただきました。
そんな時、私の祖母が倒れるという出来事が起きました。祖母が管だらけでベッドに横になる状況で、親から投与されている薬について質問されても自分の専門分野外で答えられず、無力さと悔しさを痛感しました。その思いをB先生に伝えたところ、「そんなに悔しいなら、俺についてこい」と言われ、土曜日を利用してB先生の往診に同行させていただくことになりました。いわゆるカバン持ちとして先生の活動を間近

で見ながら、多くの知識を吸収しました。そして、薬剤師としての道を考えるようになり、MRを3年で卒業、社会人4年目に名古屋で薬剤師として勤務をはじめました。

薬剤師をされていた頃のエピソードを教えてください。

名古屋で薬剤師を経験したのち、大阪に戻り、当時珍しかった在宅専門薬局に就職しました。そこで在宅医療の現場に本格的に携わることになりました。名古屋での経験を踏まえ、ある程度は対応できると思っていましたが、現実はそう甘くありませんでした。特に、施設在宅医療で医師と同行する業務では、患者さん一人一人の状況に深く入り込む必要があり、その責任の重さに押しつぶされそうになる日々が続きました。
その中で、C先生との出会いが私の転機となりました。C先生は、訪問医療の現場で薬剤師が医師にどのような貢献ができるのかについて非常に厳しい意見を持っていました。ある日、私が持っていた薬のガイドブックを手に取り、「薬剤師が医師の隣に来て何ができるんだ？お前の知識はこれ以上のものか？」と厳しい言葉を浴びせられました。この経験は非常に悔しく、以降、私はこの本を徹底的に読み込みました。折り曲げたり、書き込んだりして、毎年2-3冊は買い替えるほど勉強しました。そして、目の前の患者さんが、どのような人生を歩まれて、なぜいまの薬を必要としていているのか、薬学書だけの知識に偏らないように、薬剤師としての知識を深めることに注力しました。

開業　りおん薬局

立ち上げするにあたってどのような想いがありましたか？

人生の一つの転機となったのが結婚と子どもの誕生でした。その頃、在宅医療に携わっていた私は、多い時で200人～300人もの患者さんを担当していました。ただ、人数が多すぎて、一人ひとりにじっくり向き合う余裕がなくなってしまい、薬を「ただ渡すだけ」という日々が続いていました。無理がたたり、ある日ついに体調を崩し、倒れてしまいました。訪問車の中で点滴を受けながら仕事を続けた日もありましたが、そんな私を見た妻から「体を大切にしてほしい」と言われ、自分自身の働き方を見つめ直すことになりました。
そこで、「自分のやりたいこととは何か」を深く考えました。多くの在宅患者さんやご家族、多職種の方から学ばせてもらった経験から、自分一人で無理をして多くの患者さんを担当するのではなく、地域の患者さんを大切にできる薬剤師を育てることに注力しようと思い立ちました。地域の医療とは、医師や看護師だけではなくて、薬剤師でも変化を起こすことできると思いました。10人でも、100人でも、私の知識や経験を伝え、想いをもった薬剤師を育てることが、地域の医療に大きな変化をもたらすと考えたのです。
この決意を胸に、現場を回りながら講演や講義活動を続け、人材育成に力を入れるようになりました。MR時代に培ったプレゼン能力がここで活用でき、教えることの難しさ・・・・

りおん薬局のロゴマーク

続きはQRコードからアクセスしご覧ください　→ → →

在宅医療com株式会社
〒107-0062　東京都港区南青山3-1-36青山丸竹ビル6F
070-4504-7400 / service@zaita9iryou.com